



美しい心が美しい声をつくる

学校長 村越 新

扇小自慢の**素敵な歌声**が、冬の訪れを忘れさせてしまうような**温かい気持ち**にさせてくれる、そんな日が続きました。

11月15日には、武蔵野音楽大学バッハザールホールにて、**市内音楽会**があり、6年生が出場しました。

11月10日に行った「音楽会出場を励ます会」では、代表の子が次のように思いを語ってくれました。

「**一音入魂、一心同体、一生懸命に、心を一つにして練習してきました。運動会で作り上げたチームワークを生かして、笑顔を忘れずに歌いたいです。会場に、扇小の声を響かせてきます**」

扇小の体育館での歌声は、下学年の子も聴き入っていました。身を乗り出すように聴いている子がたくさんいました。

バッハザールで6年生が歌い上げた「ふるさと」と「心の扉」は、すばらしい歌声でした。心のこもった声がホールに響き渡りました。指導者からも、

- ・ **やさしい歌声**による合唱だった
- ・ 難しい曲だが、互いに**良く聴き合い**美しい合唱だった
- ・ **伸び**のある歌声による合唱だった
- ・ **高音**がよく響いていた
- ・ 歌についていろいろと**考えて練習**したことが分かる
- ・ 聴く人に**やさしさを与える**合唱だった
- ・ **心がとてもきれい**である

などの**高い評価**を頂きました。

卒業を控えてのこの時期、仲間と共に練習したものをバッハザールで歌い上げたこのことは、一生の思い出になると思います。



11月16日には、入間地区音楽会に、入間市の代表として**扇小5年3組**が出場しました。

励ます会で、代表の子が「アルトで難しいところがあったけど、何回も練習しました。歌に込められた**メッセージをしっかりと伝えてきたいです**」と語ったとおり、聴く人を感動させてくれる合唱でした。

指導者からも「**クラスのまとまりが感じられる、美しい合唱だった**」等の評価をいただきました。



他市の学校の合奏や合唱を聴くことができた貴重な機会でした。学校に戻ってきた子供たちも「他の学校の歌が聴けて良かった」「ソーラン節は迫力があった」「他の学校の子と友達になった」などと、感想を聞かせてくれました。

聞かせてくれた感想の中に「**6年生になっても、素晴らしい歌をつくりたい**」と言っていた子がいました。5年3組のこの経験は、必ずや来年度の市内音楽会につながっていくと信じています。

5つの我慢（2回目）

11月10日、扇小家庭学習の日で、「5つの我慢」をどのくらいしたのか調査しました。（扇小HPに掲載）

10月10日（グラフは緑）に比べて、11月（グラフは赤）に増えたのは「**メールやSNSを我慢した子**」でした。

